

令和6年8月27日
資産管理部財産活用課
0438-23-8162

「いっせんぼく再生プロジェクト」市民ワークショップを開催します！

『きさらづ地域循環共生圏』の創造に向けた取り組みの一つとして、木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会 里山再生部会（事務局：資産管理部財産活用課）では、富来田地区にある「湧水いっせんぼく」周辺地の再生プロジェクトを進めています。

今回、当該プロジェクトに関して、市民の皆さまからのご意見をいただきたく、現地散策ツアーと意見交換会を開催します。

自然や歴史を知り、考える、貴重な機会となっておりますので、ふるってご参加ください。

1 日 時 令和6年9月29日（日）午前8時30分～正午

2 集合場所 富来田公民館駐車場（真里谷110）

3 イベントの概要

イベント当日は、「いっせんぼく」の現地散策ツアーとグループに分かれての意見交換会を行います。現地散策では、実際に「いっせんぼく」までの木道を参加者の皆さまに歩いていただきます。その後、富来田公民館でグループに分かれ、「いっせんぼく」の良さや改善点について意見を出していただきます。

そこで得た参加者の皆さまのご意見については、今後作成する「いっせんぼく再生ビジョン」の参考にさせていただきます。

〈当日の流れ〉

- ・午前 8時30分 富来田公民館駐車場に集合
- ・午前 8時45分 散策開始（約1時間半）
- ・午前10時15分 散策終了
- ・午前10時30分 意見交換会（場所：富来田公民館 研修室1,2）
- ・正午 解散予定

4 定 員 20名程度

5 参加方法

9月16日（月・祝）迄に里山再生部会事務局木更津市財産活用課宛てに①代表者氏名②参加人数③電話番号を記載し、メール(zaisan@city.kisarazu.lg.jp)にてお申込みいただくか、以下、参加予約フォームよりお申し込みください。



〈参加予約フォーム〉

6 写真



いっせんぼくの木道



いっせんぼくの湧水

7 (参考) 湧水地いっせんぼく

湧水地「いっせんぼく」という名前は、その昔、いくつもの湧水がボクボクと湧き上がっていたことから、そう呼ばれるようになったと言われ、希少な植物、生物が数多く生息しています。

平成21年に地域住民参加により、いっせんぼくまで約800mの水辺に生息している主な植物に名札付けしたため、散策する人々は興味深く観察し、歩く楽しみが増したと好評を得ました。

平成23年には散策路の木道改修を行い、快適に散策できるよう保全に努めてきたところですが、「令和元年房総半島台風」の被害等により荒廃が進んでいる状況にあります。

8 (参考) きさらづ地域循環共生圏

(1) 地域循環共生圏とは

平成30年に国の「第5次環境基本計画」で提唱された、地域にある資源を最大限活用し、足りない部分は地域同士で支え合って、環境・経済・社会を良くしていく考え方です。

森里川海などの自然資源を含めた様々な資源を活用し、地元経済を活性化させながら、環境負荷の軽減も図ることで、地域を持続可能な姿に変えていく仕組みをつくります。

これは、SDGsを実践することでもあるので、「ローカル SDGs」とも呼ばれています。

(2) 本市の取り組み

地域循環共生圏の考え方のもと、本市では企業や団体の皆さまと意見交換を重ねて、地域の持続力を高める「里山の再生」、「資源循環の促進」、「食・有機農業」、「再生可能エネルギー」、「里海の活用」の5つのテーマごとに取り組みを整理しました。

これらの取り組みを市民の皆さまをはじめ、企業・団体の皆さまと協働・共創しながら進めていきます。

「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた取組(体系図)	
里山の再生	1 ハンノキ湿原周辺地域の生態系の再生・活用
	2 森林整備の促進
資源循環の促進	3 下水汚泥の堆肥化
	4 衣類の新たな循環サイクルの促進
	5 焼却処理中の有機性廃棄物の資源化
	6 アルミ廃棄物の活用
	7 食害対策としてのクロダイの資源化
	8 循環経済への移行を推進する取組
食・有機農業	9 有機農業の推進
	10 「きさらづ学校給食米」®の活用
	11 有機農産物を活用した商品の開発
再生可能エネルギー	12 脱炭素地域づくりに向けた面的整備
	13 再生可能エネルギーの普及
	14 E Vの普及促進に向けた環境整備
里海の活用	15 盤洲干潟エリアの保全・活用
	16 漁場環境の改善
	17 オーガニックツーリズムの組成
	18 カーボン・クレジット